

産業遺産紹介 IH-CSIH-040

神子畑^{みこはた}鑄鉄橋と羽^は渚^は鑄鉄橋

所在地：兵庫県朝来市の神子畑川、朝来市羽^{あさご}渚^{いくの}の田路川

明治政府は生野銀山を1868年(明治元年)に国営化し、フランス人鉱山師フランソワ・コワニエ等を投入し、採鉱技術の近代化を図ることで銀の増産を目指した。その手始めに、飾磨港^{しかま}までの資材と鉱石運搬用道路を開設しました。それが『銀の馬車道』、3年がかりで行われ1876年(明治9年)に完成した。

生野銀山と同時に官営になった明延^{あけのべ}鉱山の鉱石は神子畑で選鉱され、生野まで運ばれた。その『鉱石の道』には五つの鑄鉄橋が架けられていた。生野か



〔写真1〕神子畑鑄鉄橋 (2015/10/18 筆者撮影)



〔写真2〕羽渚鑄鉄橋 (2015/10/18 筆者撮影)

ら南に降り姫路へ向かった『銀の馬車道』では木橋であったが、山深く、環境の厳しいこの地では鑄鉄橋が使われた。当時、日本にはその技術がなく、イギリスから鑄鉄の部品として輸入され、現地で組み立てられた。現存するのは写真の二橋である。神子畑鉄橋の下側に「Glasgow」の刻印がある、との記事を見たが、残念ながら発見出来なかった。この橋は今から約 130年前の明治18年に架けられた全鑄鉄製のアーチ橋である。下流の羽渚鉄橋とともに日本に現存する鉄橋としては三番目に古いもので、全鑄鉄橋としては唯一、最古のものである。(衣川良介)

中部産遺研会報 第62号 目次

1. 産業遺産紹介／衣川良介	1
2. 海外の海事博物館めぐり (7)／杉本漢三	2
3. 人物調査の方法／朝井佐智子	4
4. 第138回定例研究会の概要／市野清志	5
5. 第139回定例研究会の概要／漢人省三	6
6. 第24回総会・第140回定例研究会案内	10
7. 第141回定例研究会・第3回さんぎ大学案内	10
8. 小見学会、事務局より、編集後記、原稿募集	10

海外の海事博物館めぐり(7)

プリンス オブ ウェールズ博物館

The Prince of Wales Museum in Mumbai

杉本漢三／SUGIMOTO, Kanzo

キーワード；ウェールズ博物館、インド、ムンバイ、火打ち銃

1. はじめに

プリンス・オブ・ウェールズというと、イギリス海軍の戦艦やイギリスの紅茶の銘柄がまず浮かぶ。この博物館の創立時の正式名称は、チャントラパティ シヴァージ マハラージ ヴァーストゥ サンガラハラヤである。1905年にウェールズ皇太子だったジョージ5世がインドを訪問したのを記念に創立された博物館だが、完成したのは1923年で、その名も「プリンス オブ ウェールズ博物館」としてオープンした。ムガル帝シャー・ジャハーンが建てた霊廟「タージマハール」が20年、タタが1903年に建設着工したタージマハールホテルなどは27年の歳月をかけて完成しているから急がないインドの時間ペースには日本人は付いていけない。

この博物館の建物は、インド・サラセン様式に15-16世紀の西インド様式のドームを取り入れたジョージ・ウィットヘッドの設計によるもので、白亜のドームが重厚な印象を与えてくれる。



〔写真1〕ジャングルの中に贅を尽くした建物が目に射る
(2000年4月11日、筆者撮影)

2. そもそもムンバイとは

1995年に、ボンベイ (Bombay) からムンバイ (Mumbai) に英語での公式名称が変わったインド最大の都市である。南アジアを代表する世界都市でもある。まずボンベイ港に上がったなら、インド門とタージマハール・ホテルに足が向く。インド門は、1911年、ジョー



〔写真2〕インド門 (2000年4月11日、筆者撮影)

ジ5世とその王妃のインド上陸を記念して作られたもので、どちらが表か裏がよく分からなかったが、インド独立後は、もう役目は終わっている。でも「大英帝国」のシンボリックなこの門を破壊せずに残しているのがインドらしいところかも知れない。

そのすぐ近くに1903年にタタの手によって建てられた「タージマハール・ホテル」があるが、これはタタがイギリス人とその近くのアポロホテルに入ろうとして時に「インド人は駄目」と断られたことに奮起して、自分で建てたホテルである。

3. 館内の展示物

インド人と日本人 (Foreign visitor) とでは入館料が違う。汚いお札ではチケットすら売ってくれない気品の高い博物館である。とにかく館内が極めてきれいで、これがインドの気品かと気を改めた。しかし、カメラの持ち込み料を取られ、フラッシュ厳禁ときたから私のASA64のポジフィルムではまともには撮れなかった。

展示物は、美術、考古学、博物学の三つのセクションに分かれているが、中でも二階の細密画のコレクションがこの館の特徴であろう。



〔写真3〕 館内のメイン展示場 （2000年4月11日、筆者撮影）



〔写真4〕 館内展示 1 （2000年4月11日、筆者撮影）



〔写真5〕 館内展示 2 （2000年4月11日、筆者撮影）

シバ神像、ガンダーラ彫刻、象牙の工芸品など私にとっては、あまり興味がなく、ただ日本の仏像の元祖はここにあったのかと納得した。

それよりも銃器の展示品に見入っていたが、日本に伝来した蒙古製と思われる「火縄銃」とは全く違う火打ち式の銃 Flintlock Gunsであった。

フリントロック式は、「燧発(すいはつ)式」とも呼ばれ、フランス人のマーリン・レ・ブルジョワ

(Marin le Bourgeois) によって1620年ごろに開発



〔写真6〕 火打ち銃 Flintlock Guns
(2000年4月11日、筆者撮影)

された。フリントロック式は、火皿の中に火花を閉じ込めるとい仕組みにより不発率を大きく低減させた。さらに火縄(マッチロック)式に似た単純さにより安価で製造でき、射撃時火蓋を開ける必要も無いなど射撃間隔も縮めることが出来き、火種を使わず、さらに火蓋を閉じたまま射撃体勢にかかることが出来るため、天候の影響が小さいのも大きな長所であった。火縄式に比べると、撃発時の衝撃で銃身がぶれ、また、引金を引いてから装薬に引火爆発するまでの時間差があるため命中精度に難があった。

4. あとがき

ハエと牛糞のムンバイ市内から、急に気品高い郊外の博物館に来て、これが植民地のインドの姿であったかと実感した。それにしてもインダス文化で世界一の数学国で、IT産業の盛んなインドの中心地ムンバイが、どうしても馴染めなかった。土葬と鳥葬の国であり、言語が3000種類もある難しい国である。公用語だけでも22言語もあり、ここを相手にビジネスを展開するのは並大抵のことではないとつくづく感じた。

スズキ自動車は本当によく頑張ったと思う。

〔参考文献〕

1. 妹尾河童『河童が覗いたボンベイ』新潮文庫、2002. 07
2. 小田実『インドIT革命の裏に貧困』朝日新聞、2000. 10.
3. 横井勝彦『アジアの海の大英帝国』講談社学術文庫、2004. 03.

人物調査の方法

朝井佐智子／Asai, Sachiko

1. 『レファレンス事典』の活用

人物調査の要領を筆者の知る限りを紹介する。

まず、調査したい人物がある場合、最初から人名事典にあたるのではなく、レファレンス事典から調査することをお勧めする。レファレンス事典と称するものは一般的に、その人物情報がどの人物事典に掲載されているかが一覧となって表示されていることが多い。自分の使い慣れた事典類にあたることも一つの手段かもしれないが、レファレンス事典を引いた場合は、記載のある事典から調査を開始することができ、開いた事典には掲載されていなかったという手間を省くことができるという利点がある。なかでも『新訂増補人物レファレンス事典』（日外アソシエーツ、1996-2006）は、掲載事典も豊富であり、また比較的多くの図書館に所蔵され簡単に閲覧することができるという点で便利な事典である。

2. 『国史大辞典』を調べるには

有名な人物の場合は、直接、人名事典等で調査を開始することも可能である。人名調査の事典としては、質・量ともに優れているという点で『国史大辞典』（吉川弘文館、1979-1993）を思い浮かべる方も多いであろう。人物ばかりでなく、「考古・民俗・宗教・美術・国語学・国文学・地理のほか隣接した分野からも必要な項目を網羅し」としていると紹介されることもあるように、約5400項目の掲載があり、歴史的人物に関する調査を容易に可能にしてくれる。しかし、『国史大辞典』で調査する場合には、直接に項目を開くのではなく、最初に索引から引くという手段があることを紹介しておきたい。『国史大辞典』は14巻の本文と上巻（補遺、史料・地名索引）、中巻（人名索引）、下巻（事項索引）の計17冊全15巻で構成されている。この15巻目の索引には、調べたい人物が何巻に掲載されているのかという情報だけでなく、どの項目に引用されているかということも掲載されている。そのため、もし調査したい人物の項目がない場合でも、他の項目から情報が得ることができるという利点があり、ぜひ索引から調査することをお勧めしたい。

3. 『過去帳』を調べてみよう

その他『明治過去帳：物故人名辞典』（大植四郎

（編）、東京美術、1971）、『大正過去帳：物故人名辞典』（稲村徹元ほか（編）、東京美術、1973）、『昭和物故人名録：昭和元年～54年』（日外アソシエーツ、1983）、『日本陸海軍総合辞典』（秦邦彦著、東京大学出版会、1991）、『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』（戦前期官僚制研究会 編、秦郁彦 著、東京大学出版会、1981）も多くの情報を得ることができる辞書類である。個人情報保護法が施行されて以来、容易に図書館で閲覧できなくなっているが、『日本紳士録』（交詢社、ぎょうせい、年刊）も多くの人物が掲載されているので便利である。

4. 国会図書館デジタルライブラリー

次に国会図書館のインターネットでの利用法を紹介する。探したい人物にはどんな著作があるのか、またどんな本に書かれているのかを調査する場合に、国会図書館のOPACで検索する方も多いであろう。その際「国立国会図書館デジタルライブラリー」に掲載されている書籍を利用して調査する人も多いのではなかろうか。デジタル化の完了した「国立国会図書館デジタルライブラリー」はすべてが利用できるわけではなく、中には「館内限定」と記述されているものもあり、不満を抱いた方もいるのではなかろうか。「館内限定」と表示されているからと言って「国会図書館に出向いて調査閲覧する必要がある、自宅では閲覧できない仕組みである」と落胆する必要はないのである。現在は、国会図書館と提携している図書館であればその図書館内で閲覧できるように利便が図られているのである。すべての図書館が提携しているというわけではないが、東京・大阪の国会図書館まで出向く必要もなく、近くの公立図書館で閲覧できる場合もあるので、最寄りの図書館に一度問い合わせてみる価値はあろう。

この「国立国会図書館デジタルライブラリー」は、図書の閲覧ばかりでなく、古典籍資料、雑誌、官報、博士論文などもデジタル化されており、多様な情報を得ることができるようになっている。面白いところでは「歴史的音源」と称される貴重な音声も公開されており、大隈重信の演説を家にいながら聴くこともできるのである。その他、国立国会図書館のサイトには、便利に利用できる電子展示会という特集展示のサイトも存在する。「近代日本人の肖像」は人物の顔写真がどの書籍に掲載されているかを抜粋してくれているので、とても便利に利用することができる。

5. 国立公文書館アジア歴史資料センター

次に国立公文書館アジア歴史資料センターの資料の閲覧方法について紹介する。これはインターネットで、国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所、琉球大学附属図書館の公文書を閲覧できるというサイトである。キーワード検索や五十音検索など検索機能による絞込みが可能であり、くずし字や判読が難しい資料も内容が活字表記されていて、公文書を読みなれていない人にとっても調査しやすい工夫がなされている。現在、電子化の途上であり、日を追うごとに利用できる範囲が増加している。すべての公文書が自宅に居ながら閲覧できるという日はそう遠くないのかもしれない。

その他、新聞検索、ざっさくプラス、ジャパンナレッジ、CiNii、マガジンプラスなど様々なツールを利用することにより、以前と比べると随分容易に人物調査ができるようになった。今後も新たなツールが増えてくることは当然予想されることではある。そこでいかに多くのツールを知り、利用できるかこそが調査を容易にする早道になっていくであろう。

第138回定例研究会の概要

市野清志／Ichino, Kiyoshi

日時：2016年01月24日（日） 13:00～17:00

会場：名城大学 名駅サテライト

司会：山田 貢 記録：市野清志

1. 研究報告、調査報告

[138-11-01]「電気事業史資料の見方調べ方」／浅野伸一

当研究会では、「産業遺産の見方調べ方」シリーズが続けられている。歴史研究では物を研究対象とする産業考古学と異なり、文字資料をどう読み解くかが鍵である。しかし、資料を読んで理解するだけでは、背後に隠れている事実になかなか気づけない。

今回の報告では、電気事業史研究を事例とし、①地図化する、②計算する、③繋がりを見つける、④集めて考える、⑤背景を考える、⑥長期的に捉える、⑦人物に注目する、など歴史的事実の発掘や新たな見方に気づくための資料分析の手法が説明された。

[138-11-02]「日本の航空機・自動車の戦前の開発史」—Total War の時代背景から生まれた世界を凌駕したゼロ戦の技術とは—／杉本漢三

第一次世界大戦後の各国は、総力戦体制を整えて

近代戦に臨んだ。しかし、日本は日清・日露戦争の勝利におぼれて、国の政治、外交、技術、人事、資源などを総動員して、国民と国力を総合的、効率的に進める感覚が無く、巨砲大艦と人馬に軍部はこだわり続けていたのである。特に自動車産業に著しく遅れた日本は、軍用機用の高性能エンジンを大量に作る体制が出来ていないまま太平洋戦争に突入していったのである。この時代背景を分かりやすく説明するために『ゼロ戦』を例にその技術力、工業力などを解説した。最後にPHP文庫の「ゼロ戦と日本刀」を紹介して、日本刀もゼロ戦も盾（防御）が無く、矛（攻撃）のみなのが日本人の精神をよく表している。今も多くの日本人の気質が変わらず、日本の現況に警告を表された。

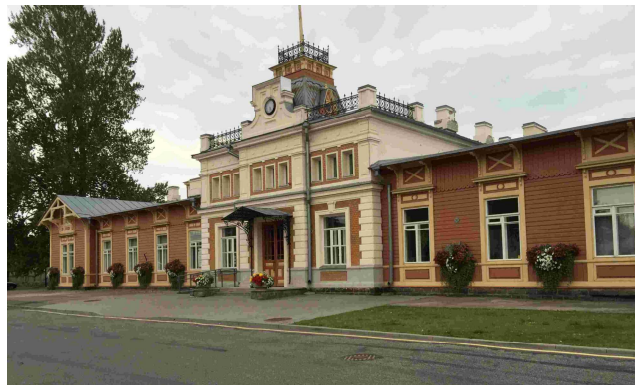
[138-11-03]東ヨーロッパの産業遺産／市野清志

フィンランド、エストニア、ラトヴィア、リトアニア、ポーランドの代表的な産業遺産を紹介した。



〔写真1〕世界遺産・ヴェルラ碎木・板紙工場博物館
(2015年8月8日、筆者撮影)

人口密度が低いため、土地が十分あるようで、昔使用した建物と機器の多くが保存されていた。フィンランドでは自然環境が豊かであり森と一体となったヴェルラ碎木・板紙工場、海の景色に溶け込んだスオメンリナ要塞が世界遺産である。



〔写真2〕エストニア鉄道博物館
(2015年8月11日、筆者撮影)

エストニアのハーブサル市の駅の鉄道博物館は駅を昔の駅をそのまま駅にしていた、ポーランドのワルシャワの鉄道博物館も同様である。ポーランドのヴィエリチカ岩塩坑は地下65～325mに聖ギンガ礼拝堂や坑道を利用した結婚式場などがあり観光以外にも使用されている。その他、アウシュヴィッツ、リトアニアの杉原千恵記念館を紹介した。

[138-11-04]「ラオスへのガラ紡技術移転と産業化への可能性」再試論／天野武弘

ラオスは1986年の「新経済メカニズムによる開放経済政策推進」により海外資本による企業進出が始まった。例として南部のパクセ市の近郊の工場団地の整備状況を発表した。工場は鍛冶屋、織物が中心で、市中では工業技術製品の大部分すなわち携帯電話、バイクなどは中国やタイからの輸入である。日本では廃れてしまったのガラ紡技術の移転状況の現況を紹介する。先進国と同様オーガニック製品に関心が高い。ガラ紡工場従業員に対しては研修を大事にし、今後の発展の礎を築く展開をされた。質疑では、技術移転に関わるラオス社会への影響を問う発言もあったが、時間もなかったことから次回研究会で再度議論することになった。

2. その他の諸報告、保存問題

[138-21-01]「産業遺産データベース研究会」中間報告／天野武弘

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

[138-31-01]研究誌『産業遺産研究第23号』について／浅野伸一

[138-31-02]会報ニュースレター・電子メール版の原稿募集について／橋本英樹

4. シンポジウム・パネル展

[138-41-01]シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第34回／山田貢
期日：2016/02/21(日) 午後1時から午後4時30分
会場：トヨタ産業技術記念館 ホールA
テーマ：稼働遺産とその活用 ―新たな展開を求めて―
基調講演：「産業遺産の評価と保存 ―「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録に関して―」清水憲一(九州国際大学特任教授)
講演：「現役の鉄道可動橋 末広橋梁」葛山拓也(四日市市教育委員会)

講演：「未だ稼働し続けるシャトル織機」成田年秀(トヨタ産業技術記念館副館長・学芸員)
※別紙、シンポジウム案内参照。

[138-41-02]2016年度パネル展と講演会「東海の綿織物・毛織物と産業遺産」(仮)／寺沢安正

- ・第12回2016年度パネル展
11月22日(火)～12月4日(日) 予定
(申し込み中)
- ・パネル展講演会2016/11/27(日) 13:00～ 名古屋都市センター
- ・第1回勉強会 2015/02/07(日) 14:00～16:30
名古屋都市センター13F

5. 見学会、その他の催し物

[138-51-01] 小見学会「岐阜県神坂風穴」(恵那山トンネル近く)／事務局

案内：田口憲一 日時：未定、3月下旬
参加希望者は事務局へ
自家用車での移動のため：車提供者・同乗者を
参加費 交通費相当分

[138-51-02]「定例研究会で見方調べ方調査研究報告予定及び見学希望の用紙記入のお願い」／定例研究会幹事

[138-51-03]第15回「ものづくり文化再発見！ウォーキング高浜コース」報告／柳田哲雄

日時：2015年10月17日(土)に開催され、273名の参加があった。

高浜市の吉浜人形・鬼瓦・渡船などに関連するスポットを約8.5kmのコースを設定し、廻った、柳田さんは、現在の半田亀崎と高浜市田戸を結んでいた「田戸(たど)の渡し跡」を説明した。(会報第60号に概要報告)

第139回定例研究会の概要

漢人省三／Kando, Shozo

日時：2016年03月20日(日) 13:00～17:00
会場：名古屋市緑生涯学習センター
第2・3集会室
司会：八田健一郎 記録：漢人省三

1. 研究報告、調査報告

〔139-11-01〕「新美南吉の文学と生涯とゆかりの建築物」／水野信太郎・野口英一朗

配布資料①「新美南吉の文学と生涯とゆかりの建築物」参照

・新美南吉生家の現状と復元の経緯（野口）

半田市岩滑中町畳店兼下駄屋の店舗兼用住宅、明治41年の建物を昭和62年に再建。南吉の父が営んでいた畳店と母が営んでいた下駄屋の店舗が併設されている。裏側は土地が急傾斜地で、一段下がったところに勝手場、物置が設けられていた。

・近世後期の農家・新美南吉の養家（水野）

半田市平和町にある。一時期、当時8歳の南吉が養子に入った農家。江戸末期の建物。鳥居建て、広間型農家建築。鳥居建ては四方の柱に横桁を2本ずらして設置した2重梁構造形式で、美濃、尾張、西三河及び東三河の豊川以西に多く見られた農家建物である。

・安城高女教員時代の新美南吉居室（水野）

安城市新田町にある。昭和14年～昭和17年まで、南吉が安城高等女学校の英語、国語の教師として勤めていた際、下宿していた大見家の長屋門。木造平屋建て、切妻屋根、棧瓦葺き。軒先まわりが船桡（せがい）造りで構成されている。船桡造りとは、和船の艫のように上部が柱よりせり出している構造である。

・旧カプトビール工場の旧状（野口）

半田市榎下にある煉瓦造り5階建て一部木骨煉瓦造の工場建築物。半田赤レンガ館として公開されている。

Q. 石田：船桡造りとは。

A. 水野：船桡造りとは、和船の艫のように上部が柱よりせり出している構造です。軒船桡（のきせがい）とも言われます。

Q. 浅野：写真にある外灯は最近設置されたものか。

A. 野口：最近設置されたものです。

Q. 浅野：南吉とカプトビールとの関係は。

A. 野口：特に関係があったわけではないが、南吉の作品に登場するゆかりの地域にある。

Q. 潮田：鳥居建ての分布と文化圏との関連は。

A. 水野：鳥居建ては美濃、尾張、西三河と豊川以西の東三河、さらに三重県の北伊勢まで含む地域に見られる特有な形式であり、豊川を越えた東三河、遠州ではほとんど見かけられない。ただし、この地域における農家建築の詳しい調査はされておらず江戸時代の建物は現存していない。

〔139-11-02〕「文献調査の方法」／朝井佐智子

配布資料「文献調査の方法」参照。

人物レファレンス事典、国史大辞典、明治時代史大辞典、朝日日本歴史人物事典等の用いての人物調査の方法を解説した。また、国会図書館のデジタルコレクション等の利用、新聞記事検索、ジャパンナレッジ等の紹介があった。

※本会報4頁、「人物調査の方法」参照。

〔139-11-03〕「鉄道資料の整理法」／山田貢

配布資料「鉄道資料の整理法」参照

資料整理の目的により整理法は異なる。研究目的に重点を置く。個人で記録した資料、写真等、文献、実物の整理法について紹介した。写真については、デジタル化して整理している。フォルダー名、ファイル名の付け方に工夫している。

整理の基本は、場所を決めて整理、保管することである。個人所有以外の資料へのアクセスもきちんとしておく。どこに何があるのかも整理しておくことである。本当の整理法は捨てること、必要な資料の厳選が重要である。

Q. 潮田：写真をデジタル化する際のサイズは。

A. 山田：できるだけ大きいサイズでデジタル化する。縮小はいつでも可能。

A. 水野：東京駅の復元の際、東京駅の建設の際のアナログ・フィルムにより建築当時の様子が判った。何でもデジタル化すれば良いという訳でもないだろう。

〔139-11-04〕「産業遺産研究資料のPCデータ整理法」／石田正治

配布資料「産業遺産研究資料のPCデータ整理法」参照。

産業遺産研究資料のパソコン上での整理について紹介した。紙媒体資料、ネガフィルム等のアナログデータは、全てデジタルデータに変換し保存する。

紙媒体資料は、ドキュメントスキャナーでPDFに変換して保存し、デジタル化した資料は原則として廃棄している。ネガ、ポジフィルムの撮影データは、フィルムスキャナーにかけてデジタル化して保存している。

手描き図面は、テーマ毎に図面ホルダーに入れて保存している。また、最近ではCADでデジタル化して保存するようにしている。手描き図面の場合、一品一葉形式であるが、CAD図面では多品一葉形式で、1のファイルデータとして保存している。

Q. 潮田：CADデータの保存形式は。

A. 石田：汎用DXF形式にしている。

2. その他の諸報告、保存問題

[139-21-01]「データベース研究会」中間報告 ／天野武弘

科研費の申請中、認められるかどうかは4月中に判明。申請が認められれば、中部産業遺産研究会に作業部会を立ち上げる。

[139-21-02]「東山植物園温室の保存・修復工事」 ／大橋公雄

資料「3月18日・中日新聞記事・国重文 東山植物園温室」を参照。3月19日の見学会に参加した。

建物は昭和11年（1936年）竣工、名古屋市の一圓技師による設計である。

鉄骨は電気溶接による構築されていた。温室は、和風建築の様式を応用したものである。鉄骨の腐食部分を修復後、再構築する作業が進められている。

使用鉄材にマル八のマーク有り、八幡製鉄製の鉄材であった。建設当時の常滑製のタイルが発見された。温室基部に水槽と石積みが発見された。

3月26日（土）に再度見学会が行われる。
補足：一圓技師は工業教育の先駆者である。（水野）

3. 研究誌、会報（研究会ニュースレター）

[139-31-01] 研究誌『産業遺産研究第23号』について ／浅野伸一

[139-31-02] 会報ニュースレター 電子メール版の 原稿募集／橋本英樹

4. シンポジウム・パネル展

[139-41-01] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」 第34回報告／山田貢

2016/02/21（日） 午後1時～午後4時30分

トヨタ産業技術記念館 ホールA

テーマ「稼働遺産とその活用」－新たな展開を求めて－

・基調講演「産業遺産の評価と保存－「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録に関して－」清水憲一（九州国際大学特任教授）

・講演「現役の鉄道可動橋末広橋梁」葛山拓也（四日市市教育委員会）

・講演「未だ稼働し続けるシャトル織機」成田年秀氏（トヨタ産業技術記念館副館長・学芸員）

※参加者数 65名（中産研会員35名、一般16名 講師及び記念館から14名）

[139-41-02] 2016年度パネル展と講演会「東海の綿

織物・毛織物と産業遺産」（仮）／寺沢安正

・第12回2016年度パネル展 11月22日（火）～12月4日（日）予定（申込中）

・パネル展講演会2016/11/27（日）13:00～ 名古屋市都市センター予定（申込中）

5. 見学会、その他の催し物

[139-51-01] 定例見学会「新美南吉生家、半田赤レンガ建物（旧カプトビール工場）、旧中埜家住宅」 ／水野信太郎・野口英一朗

・日時：2016年9月25日（日）午後12時45分より（荒天中止）

・集合場所：名鉄河和線「半田口」駅（阿久比駅で特急から普通に乗り換えが便利）

・行程

12:45 半田口駅～徒歩（15分程）～

13:00 矢勝川と彼岸花（20分程）～徒歩（10分程）～

13:30 新美南吉生家（30分程）～徒歩（20分程）～

14:20 軽食と半田赤レンガ建物（旧カプトビール工場）（90分程）～徒歩（10分程）～

16:00 旧中埜家住宅（60分程）～徒歩（5分程）～

17:10 知多半田駅（解散）

・懇親会 18:00頃より予定（神宮前・金山）

[139-51-02] 2016/03/29（火）小見学会「岐阜県神坂（みさか）風穴」 ／事務局

小雨決行（荒天中止）（恵那山トンネル近く）

・案内：田口憲一

・集合：JR中央線恵那駅 10時30分頃

・見学先：

山本風穴跡と同記念碑（恵那市）

東野蚕種所跡など

神坂風穴跡（中津川市）

・解散予定 中津川駅 16時頃

※小雨決行。現地は足下が良くないところもあり、汚れても良い格好、滑り止めに留意して参加されたし。（田口憲一）

自家用車に分乗して見学する予定。参加希望者は、①車提供して参加できる、②恵那駅に集合、どちらかを事務局大橋（メールか電話）まで連絡して下さい。

参加者数により配車を決める。

申し込み先：大橋公雄、締め切り：3/20

[139-51-03] 小見学会「知多市岡田の織物工場（岡徳織物等）」 ／永田宏

期日：4月中旬～5月中旬（連休は除く）、交渉中。
希望者は事務局大橋まで。

決まり次第、詳細は希望者に連絡。

[139-51-04]「定例研究会で見方調べ方や調査研究報告予定及び見学希望の用紙記入のお願い」／例会幹事

[139-51-05] さんぎ大学／天野武弘

- ・2016/03/27「第2回さんぎ大学：日本のタオル」
トヨタ産業技術記念館／天野武弘
- ・2016/07/24「第3回さんぎ大学：煉瓦と煉瓦造建築への探訪 水野信太郎」トヨタ産業技術記念館

6. 文献紹介、資料紹介 （ ）内は紹介者

[139-61-01] 九州産業考古学会会報 NO. 23 2015.

[139-63-01]「地方史情報 127」岩田書院
図書目録、2015（事務局）

[139-63-02] 世界遺産「明治日本の産業革命遺産」
パンフレット（事務局）

7. 出版広報事業

[139-71-01] インターネット

URL: <http://csih.sakura.ne.jp/>

8. 委員会、役員会、研究分科会

[139-81-01] 幹事会・役員会等／事務局

2015年度（平成27年度）

- ・第6回幹事会 2015/11/21
名城大学名駅サテライト 総会準備
- ・第1回役員会 2015/10/22（メール）
役員会の日時、会場の案内
- ・第2回役員会 2015/12/13
名城大学名駅サテライト 総会準備
- ・第3回幹事会・役員会合同会議（予定）
2016/04/29（金・祝）10:00～16:00
名古屋市市政資料館第5集会室、総会準備
- ・監査 2016/04/03（日）13:00～16:30
東生涯学習センター 和室

[139-81-02] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」
第34回 実行委員会

- ・第1回 2015/03/22（日）10:00～
大同大学滝春校舎本館14F交流会室
- ・第2回 2015/5/17（日）10:00～
名城大学 名駅サテライト
- ・第3回 2015/7/12（日）10:00～
名城大学 名駅サテライト
- ・第4回 2015/11/22（日）10:00～

名古屋都市センター

[139-81-04] 第12回2016年度パネル展「東海の綿織物・毛織物と産業遺産」勉強会

- ・第1回 2016/02/07（日）14:00～16:30
名古屋都市センター13F
- ・第2回 2016/04/10（日）14:00～16:30
名古屋都市センター13F
- ・第3回 2016/06/12（日）14:00～16:30
名古屋都市センター13F
- ・第4回 2016/08/07（日）14:00～16:30
名古屋都市センター13F
- ・第5回 2016/10/09（日）14:00～16:30
名古屋都市センター13F
- ・第6回 2016/11/06（日）14:00～16:30
名古屋都市センター13F パネル最終確認

[139-81-04] 研究誌『産業遺産研究第23号』編集委員会

- ・必要に応じて電子メールや電話にて開催

9. 総務・事務局関係

[139-91-01] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他

- ・第139回定例研究会
2016/03/20（日）13:00～
緑生涯学習センター 第2／3集会室
- ・産業考古学会第40回総会（2016年） 2016/05/21-22
横浜みなと博物館日本丸訓練センター
- ・第24回（2016年度）総会・第140回定例研究会
2016/05/29（日）13:00～
大同大学滝春校舎本館14F交流会室
- ・第141回定例研究会
2016/07/24（日）13:00～14:00
トヨタ産業技術記念館 ホールA
- ・第3回さんぎ大学： 同上 14:10～16:50
- ・第142回定例研究会／見学会 2016/09/25（日）
13:00～ 新美南吉生家、半田赤レンガ建物（旧カブトビール工場）、旧中埜家住宅を見学
- ・第143回定例研究会／パネル展講演会
2016/11/27（日）13:00～
名古屋市都市センター予定

第24回総会 第140回定例研究会案内

第24回総会並びに第140回定例研究会を下記の要領で開催しますのでご参加下さい。

中部産業遺産研究会会長 永田 宏

日時：2016年5月29日(日) 13:00～17:00

会場：大同大学滝春校舎 本館 14F 交流室

(名鉄常滑線・大同町駅下車・徒歩5分)

知多半島の綿布工場小見学会案内

日時：2016年4月21日(木) 雨天決行

集合時刻・場所：10時、名鉄常滑線の朝倉駅

解散時刻・場所：15時頃、名鉄河和線の阿久比駅

見学先：岡徳綿布工場、木綿蔵、知多岡田街並み、
新美綿布工場

参加費：500円(ガソリン代・手土産等)、

持ち物：昼食

申込先：事務局大橋まで電話・FAX(052)876-0337

※車に分乗しますので参加希望者は必ず申し込みをしてください。

2016年度年会費ご入金お願い

1. 年会費 4,000円

2. 振込口座

銀行支店 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店

種別 普通預金

口座番号 1531266

口座名 中部産業遺産研究会 会計係

朝井佐智子(あさい さちこ)

※ 2016 年度会費を上記口座にお振り込み下さい。

第141回公開定例研究会 案内 第3回さんぎ大学 案内

日時：2016年7月24日(日) 13:00～17:00

会場：トヨタ産業技術記念館

第141回公開定例研究会は、トヨタ産業技術記念館と共催し、定例研究会後に「第3回さんぎ大学」を開催する。

■事務局より

研究会の会員名簿を7月に発行予定です。

掲載事項は氏名、住所、電話、FAX, メールアドレス、所属です。変更のある方は事務局大橋公雄まで連絡してください。

住所以下の項目について掲載を希望しない方は、どの項目を不掲載とするか、連絡をしてください。

■編集後記、原稿募集

■編集後記

今号の「産業遺産紹介」は、姫路の衣川良介会員に寄稿していただきました。衣川会員は、月刊で『夢通信』を発行されています。現在は、「鉱石の道」シリーズで明延・神子畑・生野の産業遺産を紹介されています。『夢通信』のURL

<http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/frame1.htm>
(石田)

■産業遺産に関する諸情報、短信、文献紹介、ご意見などお気軽にご投稿下さい。投稿は郵送または電子メールでお送り下さい。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けて下さい。

原稿送付先：石田正治 ishida96@tcp-ip.or.jp

第63号の原稿締切日：2016/06/20

■「中部産業遺産研究会会報」発行予定

第63号(2016/07/15) 第64号(2016/10/15)

第65号(2017/01/15) 第66号(2017/04/15)



中部産遺研会報 第62号

ISSN 2189-5619

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.62

発行日：2016年4月15日

発行人：永田 宏

編集委員：石田正治・橋本英樹・大橋公雄・浅野伸一・岩井章真・野口英一郎
国立 篤

中部産業遺産研究会事務局：

〒458-0804 名古屋市緑区亀が洞三丁目1740 大橋公雄気付

中部産業遺産研究会のホームページ <http://csih.sakura.ne.jp/index.html>

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2016, The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.